



—この土蔵風の建物は、ご自身のアイデアですか？

はい、やっぱり田舎には田舎らしい建物が似合いますからね。阿蘇の自然とよく調和しているでしょう。ここに派手な箱型のビルでも建てたら、そりゃ目立つでしょうけど、折角の景色が台無しですよ。今は古いものが珍重される時代になってきています。昔ながらの土蔵の建物には、都会から訪れた人もホッとできるような魅力があると思うんです。

—展示品は、親子二代に渡るコレクションだそうですね。

私の父が好きで集めておりまして、その影響で私もだんだん古美術が好きになったんです。こういった美術品は、もともと阿蘇にあった品物なんです。阿蘇には古墳群もあるし、阿蘇神社や西蔵殿寺など古い神社仏閣がたくさんあります。昔は車もなかったし、美術品もそうあつちこつち動かなかつたんじゃないかな。それでこの美術館にも「古代の郷」と名づけたんですよ。

—美術館を建設されたきっかけを教えてください。

三年か四年前に、一の宮町で歴史資料館を作るといふ話を持ち上がったんですよ。そこで、町が作るなら私もひとつ美術館でも作ろうかなあと思つたんです。こういう文化施設は町の中の一つよりは二つ、二つよりは三つと、多ければ多いほうがいいですからね。というのは、観光

客は休日を一泊つぶすんだつたら自分にとって一番魅力のある所に行きますからね。一の宮にいくつも美術館があつたら、美術館めぐりにたくさんの方が来るでしょう。

今、くま牧場や猿まわしが阿蘇の観光に役かっています。観光客にもいろんな層がありますから。私は芸術・文化面で、阿蘇にあるいいものを伝えたいと思うんです。美しい阿蘇の写真等を展示するといふなと思つて、二階にはギャラリーも作つたんですよ。開館以来、地元のアート家の作品を展示しています。

—阿蘇を愛していらっしゃるんですね。

私は阿蘇に生まれて阿蘇に死んでいく人間ですから。(笑) 実は今回これを建てるのに、家族は反対したんですよ。還暦を過ぎてから、わざわざこんなことをしなくても…とね。近頃は火山灰は降り、白壁は汚れて手入れが大変なんですよ。庭の草取りもせにやなんですよ。しかし、その庭ごしに見える眺めをほめてくれる人や「今度の旅で一番よかったのは、この美術館に来たことです」と言ってくれる人がいます。それがうれしいんですよ。もう何通も手紙が来ました。それから、本当に古美術が好きで各地を回っているという人が「こんな名品は見たことがない」とびつくりされたりするなど、いろんな楽しい出会いがありますよ。

今は、これを何とか維持していこうと必死に頑張っているところです。もう一つくらい文化施設ができて、一の宮町が、そして阿蘇がもっと活性化するといひですね。

とにかく阿蘇と古美術が好きなんです。

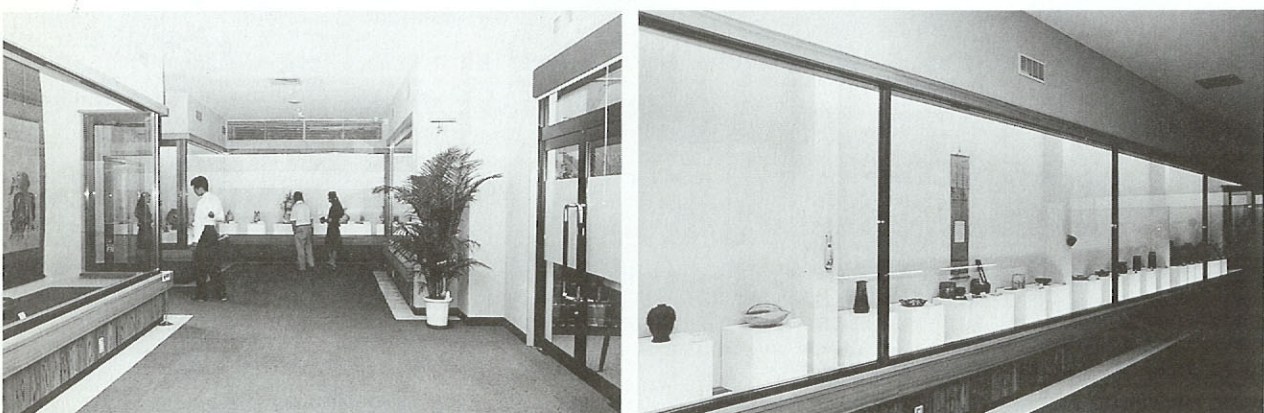
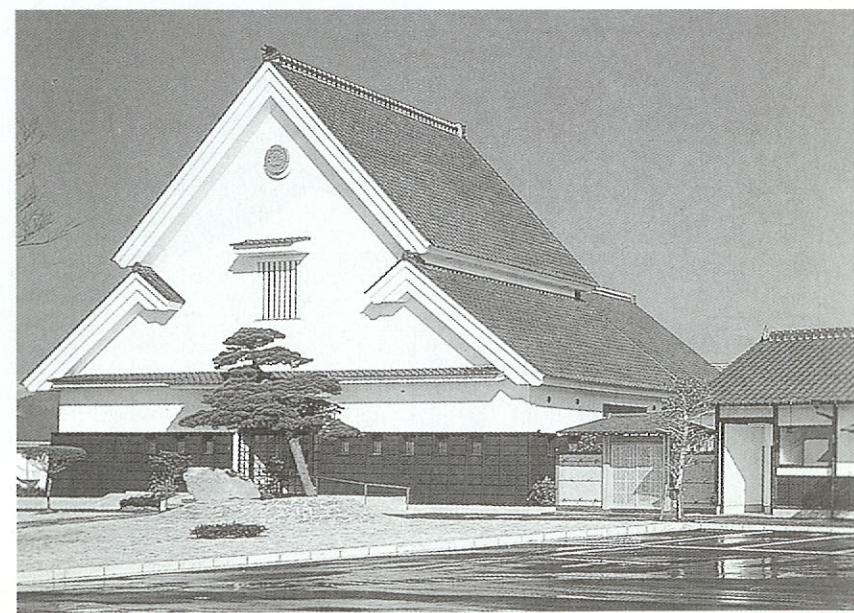
TALK & TALK
 トーク&トーク
 一の宮町
 井輝男さん

今年3月、阿蘇・仙酔峡のふもとに、白壁・土蔵造りの美術館が登場しました。一の宮町で洋品店を営む井輝男さんが個人で建てられたものです。

入館してまず目をひくのが、雪舟の「三仙図(室町時代)」。郷土色豊かな美術品に交じって「幻の竹」と言われた東坡居士の書画などの珍品・名品が揃っています。

地域おこしのため、新しい観光拠点になればと文化事業に乗りだされた井館長にお話を伺いました。

井輝男さん
 昭和3年、阿蘇郡一の宮町に生まれる。町内で洋品店を営み、一の宮町商工会長を務めた。400点に及ぶ書画・古陶磁・漆器など古美術を収集。「古代の郷美術館」の館長。



阿蘇 仙酔峡山麓
古代の郷美術館
 熊本県阿蘇郡一の宮町大字下高城口6135 〒869-26 TEL(0967)22-3313
 ■開館時間/9:00-18:00 ■休館日/毎週月曜日(祝・祭日の場合はその翌日)